

食物アレルギーとくすり

今回は日本小児科学会専門医
片岡優子先生に
「食物アレルギー」について伺いました。



▲片岡 優子 医師

木の実類は重篤なアナフィラキシーを起こす可能性が比較的高い食物であり、初めて摂取する際には十分な注意が必要で、す。また、木の実類は外食や加工食品に意外な形で含まれていることがあり（ドレッシング、カレー、パン、お菓子など）、誤食の危険性が高い食物でもあります。アナフィラキシーの危険性が高いと考えられる方には、自分で注射するタイプのアナフィラキシーの治療薬（エピペン®）を処方する必要があります。また、花粉症にかかっている方が果物や野菜を食べたあとに、口の中がかゆくなるなどの症状が出る「花粉食物アレルギー症候群」も近年増加傾向であり、小児に関しても花粉症の低年齢化に伴って、果物アレルギーが増加してきている印象があります。

小児の食物アレルギーの原因食物として、以前は卵・牛乳・小麦が多くを占めていましたが、近年は、くるみやカシューナッツ、ピスタチオ、マカミアナッツなどの木の実類のアレルギーが増えてきており、2023年の調査では、ついにくるみが単独で2位となりました。

代表的なものはシラカンバやハンノキなどの花粉アレルギーに関連したバラ科（りんごや桃など）の果物アレルギーです。多くは口の中やのどの部分的な症状にとどまりますが、他の大豆製品で症状が出ない場合でも豆乳で重い症状を起こす方がいらつしやいます。

木の実類や果物以外にも、食物摂取後に気になる症状が出た場合は、当科にお気軽にご相談ください。



社会福祉法人

恩賜財団 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

☎0898-47-2500

